

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
2021年度事業報告

1. 事業の推進

1) 公益目的事業

(1) 関東活動センター、関西セミナーハウス活動センター

- ① フォーラム事業及び研修・セミナー・体験交流事業を継続し、発展させた。
- ② アカデミー運動の理念に従って今日的な社会の課題に対する認識を深め、それにふさわしい新規プログラムの開発に取り組んだ。

(2) 関西セミナーハウス

- ① 当財団の事業展開の拠点として、関西セミナーハウス活動センターの公益目的事業に施設を提供した。
- ② 当財団の目的達成に資する諸団体が行う公益目的事業を支援するため、宿泊施設及び会議場を諸宗教団体、労働組合、文化・社会活動団体、教育機関・学会・研究会等に供した。

(3) 広報活動

- ① 関東活動センター、関西セミナーハウス活動センター及び関西セミナーハウスの活動状況について、機関紙「はなしあい」、ウェブサイト等によって継続的に情報を発信した。
- ② 機関紙、ウェブサイト等により、年度事業計画、収支予算、事業報告、決算報告、その他当財団に関する情報を公開した。

2) 収益事業

(1) 関西セミナーハウス

公益目的利用外の一般利用者、企業等への宿泊研修施設の貸出を行い、その収益の一部を公益活動に資した。

(2) 日本キリスト教会館

当財団所有の事務所用物件の一部を貸与し、その収益を公益活動に資した。

2. 事業運営推進

公益目的事業の推進に当たっては、継続的事業、新規プログラムを問わず、予算計画を持ち、必要財源を確保しつつ、安定的継続可能な運営を行った。

3. 賛助会員、寄附金

公益法人への寄付により受けられる税制優遇措置を活用し、アカデミー運動を支援する賛助会員および寄附者からの支援を仰いだ。

< 2021年度事業活動報告 >

I 財団本部

1. 組織（2022年3月31日現在）

1) 理事会

理事 中村 信博（代表理事）、戒能 信生、神保 正男、石田 光男、
神田 健次、榎本 栄次、神崎 清一（計7名）

2) 監事

黒岩 裕二、棟方 信彦（計2名）

3) 評議員会

評議員 小原 克博（評議員長）、木原 活信、増田 琴、柳井 一朗、
横野 朝彦、原 牧人、山本 俊正（計7名）

4) 事務局

神崎 清一（事務局長、他4名）

2. 会議

1) 理事会

第1回 理事会（定時）2021年5月29日（土）オンライン会議
主な決議：2020年度事業報告、2020年度決算報告、
2020年度監査報告、日本家屋等修繕の件、2021年度
定時評議員会招集

第2回 理事会（臨時）2021年6月19日（土）オンライン会議
主な決議：代表理事選任、総務担当理事選任、
財務担当理事選定、代表理事代行の指名、
第2回評議員会（臨時）招集

第3回 理事会（臨時）2021年8月6日（金）オンライン会議
主な決議：関西セミナーハウス再生に向けて「パイロット事
業実施」

第4回 理事会（臨時）2021年10月30日（土）オンライン会
議
主な決議：関西セミナーハウス再生に向けて「パイロット事
業実施」、運用基金取り崩し、日本家屋関連修繕工事

第5回 理事会（定時）2022年2月25日（金）オンライン会議
主な決議：2022年度運用基金運用方針、2022年度事
業計画、2022年度収支予算、再興に向けての寄付金、2
022年度設備投資計画、関東活動センター所長代行及び関
西セミナーハウス活動センター所長代行的任命、関東活動セ
ンターおよび関西セミナーハウス活動センター運営委員選任、
財団本部事務局長選任、顧問委嘱

2) 評議員会

第1回 評議員会（定時）2021年6月16日（水）オンライン会
議

主な決議：２０２０度事業報告、２０２０年度決算報告、２０２０年度監査報告、日本家屋等修繕、次期理事及び監事の選任、次期評議員の選任

第２回 評議員会（臨時）２０２１年７月２１日（水）決議省略

主な決議：評議員長選定

３．広報

機関紙「はなしあい」発行

３・４月（６１９号）、５・６月（６２０号）、７・８月（６２１号）、
９・１０月（６２２号）、１１・１２月（６２３号）、
１・２月（６２４号）、３・４月（６２５号）（計７回）

４．収益事業

当財団が持分を有する日本キリスト教会館の一部を以下の５団体に賃貸した。公益財団法人早稲田奉仕園、日本基督教団出版局、特定非営利活動法人スペシャルオリンピックス日本・東京、日本基督教団全国教会婦人会連合、公益財団法人東京YMCA

５．指定寄付金使用による日本家屋改修

日本家屋屋根瓦ふき替え、高木の伐採等の修繕を特定資産の日本家屋改修引当預金（指定寄付金）により実施した。

指定寄付金９００万円を取り崩し２０２２年３月末の指定寄付金残高は２００万円となった。

６．コロナ関連補助金

月次支援金１８０万円、事業復活支援金１５０万円を申請し受給した。

７．施設再生プロジェクト

事業再開を含めた施設の具体的展開策を検討し、パイロット事業の実施を上申した。その後の役割は関西セミナーハウス経営委員会が担当することとした。

８．雇用案件

元従業員からの雇用に関する訴訟は係争中である。

Ⅱ 関東活動センター

１．組織（２０２２年３月３１日現在）

１）運営委員会

運営委員 戒能 信生（運営委員長）、

原 牧人、古賀 博、郡山 千里、西川 嗣夫、平井 祐美子、
進藤 重光、浦上 充、東矢 高明（計９名）

２）スタッフ

所長代行 原 牧人

ボランティア・スタッフ 神保 信子（事務局）

２．運営委員会

第１回 ２０２１年４月２２日（木）（リモート開催）

Covid-19 感染症の影響で、運営委員会は当面リモート開催とすること、順延になっているプログラムの再開、新年度各講座のリモート開催による諸問題などについて協議した。

第2回 2021年6月27（木）（リモート開催）
各プログラムの進行状況の報告や、リモート開催による諸問題への対応、また感染予防方策などについて協議した。

第3回 2021年9月16日（木）（リモート開催）
主な決議：Covid-19の感染拡大が続く中で、次年度以降のプログラムの可能性について協議した。なお2022年3月に予定されていた第11回神学生交流プログラムをリモートで開催することを確認した。

第4回 2021年11月4日（木）（リモート開催）
主な決議：次年度の新規プログラムの可能性、事業計画、賛助会員・寄付金の募金など。

第5回 2022年2月17日（木）（リモート開催）
主な決議：今年度のプログラム状況の検討と反省、次年度の事業計画について協議した。

3. プログラム活動

1) フォーラム事業

(1) 関東フォーラム 宗教対話Ⅰ

連続講座「日本キリスト教史を読む」

（明治篇 アンコール開講）

全面リモート開講（Zoom）登録者数約100名

第1回 2021年 5月13日（木）

第2回 2021年 6月10日（木）

第3回 2021年 7月 8日（木）

第4回 2021年 8月12日（木）

第5回 2021年 9月 9日（木）

第6回 2021年10月14日（木）

第7回 2021年11月11日（木）

第8回 2021年12月 9日（木）

(2) 関東フォーラム 宗教対話Ⅱ

第6回 柏木義円公開講演会

講演「国家と教会 柏木義円の闘い」

共催 柏木義円研究会

2021年11月6日（土） Zoomでの開催

講師 若井和生

参加者 40名

(3) 関東フォーラム・宗教対話Ⅲ

連続講座「悪と苦難の問題を考える」

講師・本多峰子（二松学舎大学教授）

第5回 2021年4月15日（木）「福音書のイエス」

参加者5名

第6回 2021年5月20日（木）「アウシュヴィッツのユダヤ教徒の応答」参加者5名

（4）関東フォーラム・宗教対話Ⅳ

連続講座「教会と音楽 讃美歌を中心として」

講師・小海基（荻窪教会牧師）

全6回シリーズでの開講を予定していたが、発声をするプログラムなので、Covid-19の感染拡大を考慮して今年度は中止

（5）関東フォーラム・宗教対話Ⅴ

連続講座「LGBTと教会」（5回シリーズ）

講師・中村吉基（代々木上原教会牧師）

Covid-19感染拡大のためにZoomでの開講を計画したが、当事者の秘匿性を確保するためリモートでの開講が困難との講師の意向により、今年度は中止とし、次年度以降に開講予定

（6）関東フォーラム・宗教対話Ⅵ

共同研究「コロナ後の教会の可能性」

研究会メンバー 荒瀬牧彦（委員長）、越川弘英、中道基夫、片岡義博、仲程愛美、宮崎光、吉岡恵生、渡邊さゆり、浦上充

第1回 2021年 4月17日

第2回 2021年 7月24日

第3回 2021年10月23日

第4回 2022年 1月22日

第5回 2022年 2月19日

第6回 2022年 3月12日

2）研修・セミナー・体験交流事業

（1）神学生交流プログラム

第11回神学生交流プログラム

2022年3月15日（火）～16日（水）

校長 神田健次（関西学院大学名誉教授）

講師 廣石望（立教大学教授）

委員 古賀博、浦上充

Covid-19感染症の影響を考慮して、全面リモートで、2日間にプログラムを短縮して実施した。様々な限界はあったが、講師や参加神学生の積極的な参加によって充実したプログラムになった。参加神学生・21名 講師・スタッフ4名

（2）研究会 ボイストレーニング

「さらに豊かな礼拝のためにことばを届けるトレーニング」第6期

会場 日本基督教団巣鴨ときわ教会

講師 友野 富美子（日本基督教団吉祥寺教会副牧師）

発生を伴うプログラムなので、今年度は休止せざるを得なかった。

（３）聖書を教材として用いる講座

①聖書を読む講座Ⅱ（全面 Zoom で開講）

新しい聖書の学び「マルコ福音書をジックリと読む」Ⅳ

共催 早稲田奉仕園

会場 早稲田奉仕園スコットホール

講師 山口 里子

申し込み登録数約 90 名

第 1 回 2021 年 4 月 12 日（火）

第 2 回 2021 年 5 月 10 日（火）

第 3 回 2021 年 6 月 8 日（火）

第 4 回 2021 年 7 月 13 日（火）

第 5 回 2021 年 9 月 14 日（火）

第 6 回 2021 年 10 月 12 日（火）

第 7 回 2021 年 11 月 9 日（火）

第 8 回 2021 年 12 月 14 日（火）

第 9 回 2022 年 1 月 11 日（火）

第 10 回 2022 年 2 月 8 日（火）

②聖書を読む講座Ⅱ

「上林順一郎先生と一緒に聖書を読もうーこの時代の中で聖書からのメッセージを読み解く 創世記Ⅱ」

講師 上林順一郎（日本基督教団隠退教師）

会場 早稲田奉仕園セミナーハウス

対面と Zoom の共用で開講 登録者約 30 名

第 1 回 2021 年 5 月 26 日（水）

第 2 回 2021 年 6 月 30 日（水）

第 3 回 2021 年 7 月 28 日（水）

第 4 回 2021 年 9 月 22 日（水）

第 5 回 2021 年 10 月 27 日（水）

第 6 回 2021 年 11 月 24 日（水）

4. 評価と展望

- 1) 2021 年度関東活動センターの運営は、前年度の引き続き Covid-19 感染拡大のため困難を強いられた。多くの講座をリモート開催とせざるを得なかったが、かえって全国各地、また海外からも参加者があり、予想を超える参加者を得ることができた。しかし対面、あるいは発生を伴うプログラムは、今年度もほとんど中止せざるを得なかった。

- 2) キリスト教会館 1 階の事務所も、感染拡大期には月に一度程度の開室

- とし、ボランティア・スタッフの神保信子さんの協力を得て、かろうじて事務局体制を維持することができた。
- 3) 2020年、2021年と中止を余儀なくされた神学生交流プログラムは、思い切って二日間に短縮しリモート開催としたが、カトリックの神学生なども参加し、充実したプログラムとなった。
- 4) プログラムの中で、特に早稲田奉仕園との共催プログラムについては、リモート開講などの体制について多大な協力を得た。今後とも、早稲田奉仕園との協力体制を整えていくこととしたい。
- 5) Covid-19 が各教会に与えた深刻な影響を考慮し、「コロナ後の教会の可能性」を模索する共同研究を実施した。神学者や、様々な教派の若手の教職の参加を得て、リモートの形で前後5回の研究会を実施した。その内容は、近くキリスト新聞社から刊行予定である。

Ⅲ 関西セミナーハウス活動センター

1. 組織（2022年3月31日現在）

1) 運営委員会

運営委員 小久保 正（委員長）、網野 俊賢、榎本 栄次、小笠原 純、織田 雪江、金山 顕子、鳥井 清司、村上 みか、柳井 一朗、山本 知恵、山本 俊正（計11名）

2) スタッフ

所長代行 榎本 栄次
事務局 都木 かおり

2. 運営委員会

第1回 2021年4月17日（土）（ウェブ併用）

主な決議：6～7月のプログラム。寄付金依頼書改訂。

継続審議：シュペネマン記念プログラム検討。Zoom、Youtubeなどによるサービス提供策。運営委員の補充。アンケート分析について。

第2回 2021年5月15日（土）（ウェブ併用）

主な決議：7月プログラム、開発教育セミナー第2回 会場変更。要項と予算。2021年度年間案内。

継続審議：シュペネマン記念プログラム検討。Zoom、Youtubeなどによるサービス提供策。運営委員の補充。アンケート分析について。

第3回 2021年6月12日（土）（ウェブ併用）

主な決議：9月以降プログラム、修学院フォーラム「福祉」第1回 要項と予算。開発教育セミナー第3回 要項と予算。

鳥井委員をデジタルアドバイザーに選任。

継続審議：シュペネマン記念プログラム検討。Zoom、Youtubeなどによるサービス提供策。運営委員の補充。アンケート分析

について。

- 第4回 2021年7月24（土）（ウェブ併用）
主な決議：関東・関西合同プログラム委員会の設置協議担当委員選出（5名）。「マーケティング検討会」提案による、サテライト会場の選定。エキュメニカル・ネットワーク第4回協議会開催の後援。（広報など協力）
継続審議：「マーケティング検討会」提案による、サテライト会場、広報協力先の選定と可能性など。出版のデジタル化の可能性。運営委員の補充。
- 第5回 2021年9月4日（土）（ウェブ併用）
主な決議：10月以降のプログラム。開発教育セミナー第4回、第5回 要項と予算。修学院フォーラム「福祉」（京都YWCA共催）テーマ決定、日程は調整。金属労協第52回労働リーダーシップコース開催に協力。
第7回原発フォーラム記録集出版準備。
関東・関西合同プログラムの協議について、今回は見送り提案。
継続審議：第10回原発フォーラムとシュペネマン記念会。「マーケティング検討会」
- 第6回 2021年10月9日（土）（ウェブ併用）
主な決議：11月以降のプログラム。修学院フォーラム「福祉」第2回（京都YWCA共催）内容、日程。シュペネマン記念会と修学院フォーラム「エネルギーを考える」第10回、日程延期（3月）。開発教育セミナー第6回 要項と予算。
継続審議：KSH活動センター活動改善策。
- 第7回 2021年11月13日（土）（ウェブ併用）
主な決議：12月以降のプログラム。修学院フォーラム「福祉」第2回、要項はメール回付。修学院フォーラム いのち 第3回要項のメール回付と予算。シュペネマン記念集会と修学院フォーラム「エネルギーを考える」第10回計画見直し。クリスマス寄付願文案。
継続審議：2022年度プログラム計画、予算。KSH活動センター活動改善策。
- 第8回 2021年12月4日（土）（ウェブ併用）
主な決議：1月以降のプログラム。、今年度延期、次期開催で調整。
継続審議：シュペネマン記念集会と修学院フォーラム「エネルギーを考える」第10回。2022年度プログラム計画、予算。KSH活動センター活動改善策。
- 第9回 2022年1月8日（土）（ウェブ併用）
主な決議：3月以降のプログラム。修学院フォーラム「社会」

第4回、要項メール回付と予算。シュペネマン記念集会と修学院フォーラム「エネルギーを考える」第10回、次年度に延期。2022年度事業計画骨子。

継続審議 2022年度予算。次期運営委員推薦。

第10回 2022年2月5日（土）（ウェブ併用）

主な決議：2022年度事業計画案、予算案修正。次期運営委員推薦者。

4月以降のプログラム。2022年度修学院フォーラム「いのち」第1回、要項はメール回付。

第11回 2022年3月5日（土）（ウェブ併用）

主な決議：5月以降のプログラム。2022年度修学院フォーラム「社会」第1回、要項と予算。修学院フォーラム「社会」第3回、要項と予算修正。次年度運営委員会日程（暫定）。Zoom 併用時フォーラム運営のための運営委員協力体制。財団機関誌「はなしあい」3カ月毎発行に伴う、日程確認と進捗協力。

第7回「エネルギーを考える」フォーラム記録集出版。

3. プログラム活動

1) フォーラム事業

(1) 修学院フォーラム 社会

目的 Zoom の特徴を生かして、関東活動センターが主催する「日本キリスト教史を読むⅠ（明治篇）を共催する。それと並行して、独自に、「アメリカの政治的動向」、「原発問題」、「人種的ソーシャルディスタンス」などについて考える。

I 題「日本キリスト教史を読むⅠ（明治篇）」

関東活動センター、早稲田奉仕園と共催、ウェブ開催
第1回5月13日（木）、第2回6月10日（木）、
第3回7月8日（木）、第4回8月12日（木）、
第5回9月9日（木）、第6回10月14日（木）、
第7回11月11日（木）、第8回12月9日（木）
講師 戒能信生（日本基督教団千代田教会牧師）

II 題「分断と陰謀論のアメリカーポスト・トランプの時に」

2021年5月22日（日）ウェブ、会場併用
講師 森本 あんり（国際基督教大学教授）
参加者 40名

III 題「シュリンクするまち・リボーンするまち」

2021年7月24日（土）ウェブ、会場併用
講師 高田 清太郎（株式会社高田建築事務所 代表取締役会長）

参加者 10名

Ⅳ 題「人種的『ソーシャルディスタンス』への挑戦
― 奥村多喜衛の事例 ―

2022年3月12日（土）ウェブ、会場併用

講師：吉田 亮（同志社大学社会学部教授）

参加者 18名

※「エネルギーを考える」第10回は中止

(2) 修学院フォーラム いのち

目的 パンデミックにより傷ついている人が多いこの時に、
「音楽による看取り」、と「ヒップホップ音楽による癒し」について考える。

第1回 題「音楽（ハープ）による 看取りのケア」

2021年4月10日（土）ウェブ、会場併用

講師 キャロル・サック（アメリカ福音ルーテル教会
宣教師）

参加者 30名

第2回 題「ヒップホップに宿る アナムネシスの力」

2021年6月12日（土）ウェブ、会場併用

講師：山下 壮起（日本キリスト教団阿倍野教会牧師）

参加者 25名

第3回 題「ペストとキリスト教

― 中世末期の死生観と終末思想 ―

2022年2月26日（土）ウェブ、会場併用

講師：村上 みか（同志社大学神学部教授）

参加者 33名

(3) 修学院フォーラム 福祉

目的 「パンデミックの原因となる「気候変動の意味」と、パ
ンデミックによりもたらされる、「子ども、女性、若者の
貧困」について考える。

第1回 題「気候変動とキリスト教 ～人新世と宗教～」

2021年9月11日（日）ウェブ、会場併用

講師 福嶋 揚（神学博士）

参加者 26名

第2回 題「あっち側の彼女、こっち側の私

― 出版記念トークイベント×はなしあい」

共催・会場（公財）京都YWCA ウェブ、会場併用

2022年1月29日（日）

ゲスト（著者） 結生さん、小坂 綾子さん

参加者 55名

2) 研修・セミナー・体験交流事業

(1) 開発教育セミナー

目的 人権・平和・環境などの地球的課題を参加型学習で学び、
私たちの社会のありようを考える。

第2回 題「コロナ禍でくらす外国人技能実習生の今」

2021年7月11日（日）ウェブ開催

講師 斉藤 善久(神戸大学大学院国際協力研究科准教授)

参加者 21名

第3回 題「日本と韓国の過去・現在・未来～共に生きる隣人として」

2021年9月19日（日）ウェブ・会場併用

講師 太田 修（同志社大学グローバル・スタディーズ研究科教授）

参加者 16名

第4回 題「私たちは気候変動を食い止めることができるのか？」

2021年10月10日（日）ウェブ開催

講師 : 伊与田 昌慶（特定非営利活動法人気候ネットワーク主任研究員）

参加者 16名

第5回 題「持続可能な食と農をめざして～食料主権をとりもどす」

2021年11月14日（日）

会場 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン

講師 西川 芳昭（龍谷大学経済学部教授）

参加者 15名

※ 第1回、第6回 開催中止

(2) お茶のこころと宗教のこころプログラム

開催なし。

(3) 展示、講演会事業

もみじまつり

開催なし。

4. 評価と展望

- 1) コロナ感染症の広がりが繰り返され、加えて年度末には、ロシアのウクライナ侵攻があり、多難な年度であった。その中で、関西セミナーハウス活動センターでは、困難な問題を越えて正義、平和、いのちの尊ばれる社会を実現するために、様々なプログラムを組んできた。幸い多くの有能な講師の協力を得て、意義あるプログラムを開催することができた。しかし対面方式とリモート方式を併用したにもかかわ

らず、どのプログラムへの参加者も年度当初に期待した数よりかなり少なかった。どこに問題があるか検討する必要がある。

2) 原子力発電の問題に関しては、2019年春に開催した第7回フォーラムの成果をようやく出版することができた。折しも、ウクライナでは、ロシアがチェルノブイリ原発を占拠し、原発が潜在的核兵器になり得ることを示した。残念ながら今年度は、原発を考えるフォーラムを開催することができなかったが、今後このフォーラムを充実させ、過去のフォーラムの出版も加速すること望まれる。

3) 未だコロナ感染症の広がり、波状に繰り返されているが、感染防止に注意しつつ、関西セミナーハウスの自然豊かな静寂な環境を生かした対面、宿泊プログラムを充実させることが望まれる。

IV 関西セミナーハウス

1. 組織（2022年3月31日現在）

1) 経営委員会

経営委員 神崎 清一（委員長）、神保 正男、
中村 信博、柴田 賢司、森口 明洋（計5名）

2) 人事委員会

人事委員 神崎 清一（委員長）、神保 正男
柴田 賢司、森口 明洋（計4名）

3) 館長 森口 明洋

4) スタッフ 嘱託1名

2. 事業実績

上半期は全休業したが、2021年8月6日開催の理事会で、関西セミナーハウス再生に向けて「パイロット事業実施」を決定し、10月13日より受け入れを開始した。

1) 利用状況（カッコ内は前年度比、資料参照）

① 年間の延宿泊者数（4月1日～10月12日休館、10月13日～
3月31日パイロット事業）

上期 0名

下期 451名

合計 451名（119%）（前年より72名増）

② 個人団体比率

団体 449名（構成比99.6%）

個人 2名（構成比0.4%）

2) 公益目的事業と収益事業分類別

(1) 宿泊分類別

① 公益目的事業

・アカデミープログラム 7名

・キリスト教諸団体 10名

・教育関係・学会・研究会	19名
・労働組合・文化・社会活動団体	279名
合計	315名

② 収益事業

・一般諸団体	40名
・人材育成法人	94名
・個人	2名
合計	136名

(2) 当日利用分類別

公益目的事業

・アカデミープログラム	15名
・キリスト教諸団体	10名
・労働組合、文化・社会活動団体	58名
合計	83名

(3) 宿泊及び当日利用合計

公益目的事業	398名（構成比 74.5%）
収益事業	136名（構成比 25.5%）

3) 損益実績（資料参照）

- ・上半期は全休業のため、下半期より実施した「パイロット事業」による収支実績となる。
- ・売上実績は、宿泊者数が451名で上半期のみ営業した前年より72名増（前年対比119%）となり、売上高も770万円（前年比112%）となった。
- ・宿泊利用団体は10月利用の1団体が全体の6割を占め、他は経営コンサルタント、一般諸団体等で企業内研修の利用は無かった。
- ・支出実績は、売上原価588万円（前年比66%）、一般管理費2,295万円（前年比44%）である。
- ・その結果、営業利益は、△2,105万円と計画から88万円の増となる。
- ・営業外収益は、雑収入として京都府宿泊施設事業継続緊急支援事業補助金102万円、エレベーター冠水による損害保険104万円があった。
- ・最終収支は△1,895万円（赤字）である。

4) 資金繰

休業による資金繰り悪化対応の為、11月に本部（運用基金）から460万円の借入を実施した。その結果3月末の現金および預金の残高は663万円となった。なお、残高に含まれている清心会残高（253万円）を差し引いた、関西セミナーハウスの次期繰越金は410万円の実績である。未払金と未収入金を考慮すると367万円となる。

5) 寄付金

上半期は休業中であつたこともあり本年度中は募金活動を行わず、個人から寄せられた合計79,000円（前年比6%）である。

6) 広報活動

- ・ホームページへの訪問回数は、前年度比82%（17,046回）である。
- ・ホームページのブログ更新回数は4回で、そのアクセス数は前年度比60%（1,214回）である。
- ・12月にはリピーターへの2022年度上期利用分の先行募集をメール送信、3月にも一般募集のメールを送信した。

3. 評価と展望

1) パイロット事業の状況

- ・新型コロナウイルスの影響により2020年10月から休業していたが、再生に向けたパイロット事業を2021年10月に開始し、10月13日から30日まで18日間1団体（JCM労働リーダーシップコース）延べ279名の宿泊を皮切りに下半期合計451名の宿泊客を受け入れた。
- ・宿泊研修の集客に際して指針を掲げ、特に「一団体貸切営業」、「客室のシングル利用」にこだわり、空気清浄機やサーマルカメラ等の機器への投資などコロナ感染防止対策を徹底的に実施した結果、利用者から高評価を得ることができた。
- ・貸切営業は利用者の安心・満足だけでなく、最少人数で運営することができたため双方にメリットがあつた。連泊時の客室清掃を2～3日おきとしたこと、アメニティの配付をセルフサービスとするなど効率化した。利用者の満足度を損なうことはなかった。
- ・課題は団体貸切営業のため個人宿泊や喫茶営業はできなかった。個人営業に関しては、年末年始限定で実施したが、反応はあまり良くなかった。また、パイロット事業開始準備においていたるところでの設備老朽化発覚した。しかし、今年度の修理は必要最低限にとどめたため大浴場設備や厨房設備の修繕が次年度以降に持ち越しとなっている。
- ・パイロット事業は次年度の休館解除に向けた準備として大きな成果があつた。

2) 設備投資と修繕費

設備投資について、施設を再開する場合の準備費用を200万円計画したが、コロナ対策としてサーマルカメラ2台分74万円を固定資産計上した。未実施案件として昨年度実施予定であつた防犯カメラ設置や空調入替があり、さらに今年度発生したボイラー等の大浴場設備修繕、厨房大型冷蔵庫入替が実施できなかった。この2件は和室の宿泊利用再開など一日当たりの宿泊客数拡大に向けて必須事項である。

3) コロナ対策費

コロナ対策費として、消耗什器備品費（主に空気清浄機やアクリル板など）を購入し、補助金として102万円を受給した。

添付資料：2021年度関西セミナーハウス損益計算書実績

（ 以 上 ）